

木葉小便り

令和6年6月4日(火)発行
文責 校長 吉野 新吾



優勝旗と白団団長



一生懸命が、見ている人たちを元気にする!

5月25日(土)天候にも恵まれ、思い出に残る運動会が実施できたと思っています。町建設課より運動場を整えるための塩化カルシウムを分けていただきました。自動車関係の方より、例年なら数日かけて入れていた競技用大玉の空気を、業務用のコンプレッサーであっという間に入れていただきました。グランドゴルフの方には、運動場のブラシかけをしていただきました。当日も、たくさんの方々に応援していただき、地域に支えられて木葉小学校の教育活動が成り立っていることを実感しました。

運動会という学校行事をとおして「自分で考動する」「仲間と協力する」という2つの力の育成につながる実践ができました。子供たち、職員、保護者、地域の方々・・・すべてに感謝しています。



誓いのことば



友情のバトンパス



ゴールをめざして



玉入れ(低)



木葉っ子タイフーン(中)



綱引き(高)



みんなが英雄

「iPad キッズ」ってご存知ですか?

木葉小の課題の1つに、**テレビやゲーム等のメディア時間**の長さがあります。全国や県と比較してもよくない数字です。学習、外遊び、睡眠時間が削られてしまいますし、視力低下の原因にもなっているようです。

本年度の木葉小は「学習時間の確保・メディアコントロールの取組」として、学校・学級・家庭で具体的な取組を進めていきます。



「近年アメリカでは、「iPad キッズ」の問題が話題になっています。iPad をはじめとしたメディア端末を幼少期の子供が見続けることです。コロナのパンデミックの時期に幼少期を過ごしたことも関係していると言われていたますが、未就学の小さい子供たちが泣きわめいたりしたとき、すぐに親が何でも与えてくれて、我慢や集中ができなくなっていると問題提起されています。これは脳科学的に見ても、幼少期から動画やSNSなどの刺激の強いコンテンツを見続けていけば集中し続ける力が育ちません。」【ライター 竹田 ダニエル 氏】

「我が子がどのように育ってほしいか」、今考えていくことが大切です。

